様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年 6 月 23 日現在

機関番号：23901
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2010
課題番号：19530449
研究課題名（和文）　ブラジル人住民の地域参加と地域統合をめぐる社会学的研究

研究課題名（英文）　Studies on Participation and Integration into Japanese Communities of Nikkei Brazilians in Japan

研究代表者
山本　かほり（YAMAMOTO KAORI）
愛知県立大学・教育福祉学部・准教授
研究者番号：30295571

研究成果の概要（和文）：本研究においては，「定住化」が進んだといわれる日系ブラジル人住民が地域に参加し，統合するという課題について検討を重ねた。研究を開始した当時は，主として第二世代（子どもたち）に焦点をあてて研究を行うことにしていたが，2008 年秋以降の経済危機発生後は，雇用危機下にあるブラジル人住民の実態把握に焦点をあてた。インタビューおよび派遣会社を通じての労働者へのアンケート調査により，経済危機以降，日本にいたブラジル人のうち，どのような層が帰国し，逆に日本に残ったのかということを検討した。
研究成果の概要（英文）：The aim of this study was to consider some processes of participation and integration into Japanese communities of Nikkei Brazilians in Japan. It has been said that Nikkei Brazilians are no more “Dekassegui” workers, but are “residents” in Japan, but the recession since 2008 brought a great change—many lost jobs and about 1/3 of Brazilians in Japan went back to Brazil. In this study we focused to grasp the overall situation of Brazilians in Japan after the recession and interviews and questionnaire were conducted and we are on the process of analyzing the data.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2007 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2008 年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009 年度	900,000	270,000	1,170,000
2010 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総　計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：社会学・社会学
キーワード：日系ブラジル人，移民，外国人住民，統合，地域参加

１．研究開始当初の背景

１９９０年の入管法改正から 20 年。当初は「デカセギ」として短期で帰国すると思われた日系ブラジル人の定住化が進んでいると言われている。流入当初は日常生活における日本人社会との葛藤やトラブル，それを回避するための地域社会の取り組みなどが分析の対象となってきた。2000 年代半ばからは「多文化共生」が地方自治体での重要な政策の柱ともなり，異なった文化的背景をもつ人々と日本社会がよりよい関係を形成するにはどうしたらいいのかいう課題となっていた。それにともない，一方的な「支援」の対象となっていた日系ブラジル人を住民と

して受け入れ，かれらの地域社会への参加と統合を進展させることの重要性が認識されはじめていた状況が，本研究開始当初の背景である。

２．研究の目的

日系ブラジル人が日本へ流入後，約 20 年が経過した。かれらが「住民」として地域社会に参加，統合するプロセス，その条件は何かを検討することが本研究の目的である。

３．研究の方法

日系ブラジル人住民へのインタビュー

西尾市外国人住民へのアンケート調査

西尾市外国人集住団地におけるブラジル人住民対象アンケート調査（2001 年～2003 年に実施した調査のフォローアップ）

愛知県内派遣会社に雇用されているブラジル人へのアンケート調査

４．研究成果

2007 年から 2008 年までは，当初の研究目的に即して，日系ブラジル人へのインタビュー，西尾市在住の外国人住民へのアンケート調査（西尾市の全面協力を得て，外国人登録原票を母集団としての調査），西尾市外国人集住県営団地在住のブラジル人へのアンケート調査を行い，ブラジル人をはじめとする外国人住民の全般的な実態，かれらが認識している生活課題などを分析した。

2008 年秋以降は，リーマンショックに端を発した雇用危機下で深刻な状態になったブラジル人へのインタビューを重ねて，かれらの実態を把握することを第一の目的に変更。さらに，派遣会社の協力を得て，リーマンショック以降のブラジル人労働者の状況を把握するためにアンケート調査を実施。486 票の有効票を得た。現在，分析中である。

以下，単純集計レベルではあるが，リーマンショックの影響をあらわすデータである。

表１　2008 年秋以降の失業経験

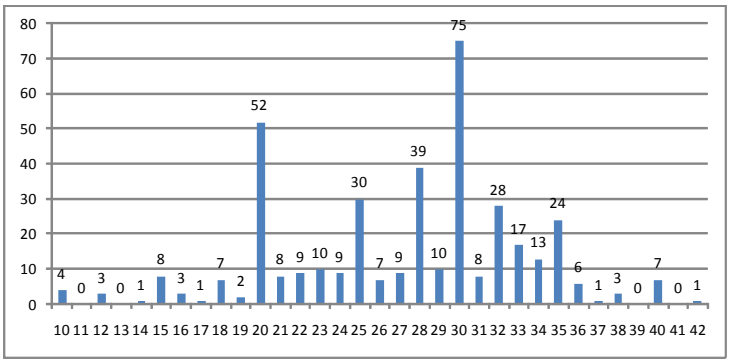
	度数	%
失業した	250	51.1
失業していない	213	43.6
無回答	26	5.3
	489	100.0

表２　2008 年秋以降の変化

労働時間の減少		収入の減少		住居の変更		生活保護受給	
度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
298	60.9	355	72.6	181	37.0	109	22.3

これらの結果からわかるように半数が失業を経験。うち，約 1/4 が生活保護までを経験したとこたえている。今回の調査の対象者となったブラジル人は，リーマンショック後も日本に残ることを選択した人々であるが，その選択にも厳しい状況があったことがうかがえる。しかしながら，現在は雇用があり，かれらの平均月収は以下の通りである。

図１：平均月収



平均月収は、20 万円と 30 万円の２つの山があり､20 万円～35 万円の間に集中している。先に見てきたように、経済不況後収入が下がったという回答が７割以上にのぼるわけだが、Ａ社を通じた派遣では 30 万円前後の月収を確保している層が一定程度存在していることがわかる。

また，今後の滞在予定を聞くと以下のような結果を得た。

表３　日本での滞在・帰国予定

	度数	%
日本に永住予定	39	8.0
できるだけ日本に滞在、いずれは母国に帰国予定	157	32.1
1 年以内に母国に帰国予定	67	13.7
3 年以内に母国に帰国予定	77	15.8
5 年以内に母国に帰国予定	32	6.5
帰国の予定が立たない	97	19.8
その他	8	1.6
無回答	12	2.5
	489	100.0

日本での滞在・帰国予定にみてみると、日本に永住するという意思表示を明確に示しているのは 8.0%である。

最も多いのが「できるだけ日本に滞在し、いずれは母国に帰国したい」という層で、約 1/3 を占める。これに続くのが「帰国の予定が立たない」19.8%で、帰国を希望しつつもその時期を明確にできないことが数字からも明らかとなる。

さらに，統合へ指標ともなる政治参加，日本国籍取得の意志に関しては以下の通りである。

表４　日本国籍取得、政治参加への希望

	日本国籍		二重国籍（日本国籍）		国政参政権		地方参政権	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
希望する	129	26.9	224	45.8	158	32.3	156	31.9
希望しない	324	66.3	227	46.4	300	61.4	295	60.3
すでに取得	19	3.9	19	3.9	15	3.1	14	2.9
無回答	17	3.5	19	3.9	16	3.3	24	4.9

これらのデータをもとに，今後はどのような層が日本に残ることを選択するのか，また，日本に残る条件（逆に言えば，ブラジルに帰国できる条件は何かについて分析を続けていきたい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 10 件）

① 山本かほり「多文化共生施策」が見落としてきたもの一経済不況下におけるブラジル人」『ＪＩＣＡ横浜　海外移住資料館研究紀要』5：33-44　2010，査読無.
② 山本かほり・松宮朝「外国籍住民集住都市における日本人住民の外国人意識-愛知県西尾市，静岡県旧浜松市，長野県飯田市調査から≫『日本都市社会学会年報』28:117-134，2010，査読無.
③ 山本かほり「多文化共生施策が見落としてきたもの-経済不況下のブラジル人-」『韓国社会学会　発表要旨集』95-105，2009.
④ 山本かほり・松宮朝「2008 年度西尾市外国人住民調査報告」『社会福祉研究』11：43-55，2009，査読無.
⑤ 山本かほり「第二世代の教育達成をめぐる問題-ブラジル人の若者の事例から―≫『愛知県立大学文学部論集(社会福祉学科編)』57:51-74，2009，査読無.
⑥ 山本かほり・松宮朝「西尾市県営住宅外国籍住民調査中間報告」『共生の文化研究』３：３-38，2009，査読無.
⑦ 山本かほり・松宮朝「「西尾市における３県営住宅のブラジル人の実態調査中間報告」「共生の文化研究」2009，査読無.
⑧ 山本かほり[多文化共生の地域社会づくり：愛知県西尾市の事例（韓国語）『多民族・多文化社会進展における社会葛藤の様相と克服過程：オーストラリアと日本の事例（韓国語）』203-244，2007，査読無.
⑨ 松宮　朝「ニューカマー外国人の地域参加をめぐって」『社会福祉研究（愛知県立大学文学部社会福祉学科紀要）57-69，2007，査読無.
⑩ 山本かほり・松宮朝　「地域住民としての外国人をめぐって」『移民の現在・多文化共生の未来（カルチュラルタイフーン 2007）』23-39，2007，査読無.

〔学会発表〕（計 10 件）

①山本かほり“Multi-culturalism? -20 years of Nikkei Brazilians in Japan” アジア女性学研究所，50周年記念シンポジウム，2010/11/11，韓国ソウル，淑明女子大学校.
②山本かほり「外国籍住民集住地域の比較研究　②愛知県西尾市の事例から」東海社会学会，2010/7/3，金城学院大学.
③山本かほり　「多文化共生施策が見通してきたもの」韓国社会学会，日韓共同セッション，2009/12/8，高麗大学.
④山本かほり「日系ブラジル人家族と子どもの地域社会統合における政策支援」（韓国語）International Forum on Peace and Green Partnership，2009/9/24，韓国京畿道アートセンター
⑤山本かほり” From Foreigners to Community Members: The Integration of Nikkei Brazilians into Japanese Neighborhoods“The 18th New Zealand Asian Studies Society，2009/7/7，ＮＺビクトリア大学
⑥松宮朝・山本かほり「集住都市におけるニューカマー外国籍住民に対する意識構造―愛知県西尾市、静岡県旧浜松市、長野県飯田市調査から―」日本都市社会学会，2008/9/13，法政大学.
⑦山本かほり「第二世代の教育達成をめぐる問題-ブラジル人の若者の事例から―」韓国湖南大学４０周年記念シンポジウム，　2008/5/23，韓国湖南大学.
⑧松宮朝・山本かほり「地方自治体の外国人住民統合政策の形成過程」日本社会学会大会，2007/11/12，関東学院大学.
⑨山本かほり「多民族化の進展における社会葛藤の様相と克服過程：地域社会の試み一愛知県西尾市の事例を中心に」多民族・多文化社会へ向かう韓国社会の挑戦と展望（韓国女性政策研究院主催　国際シンポジウム），2007/9/13，大韓商工会議所.

⑩松宮朝・山本かほり「自治体の外国人施策に関する比較研究−愛知県の事例を中心に−」地域社会学会大会，2007/5/12，金城学院大学.

６．研究組織

(1)研究代表者

山本 かほり（YAMAMOTO　KAORI）
愛知県立大学・教育福祉学部・准教授
研究者番号：30295571

(2)研究分担者

松宮 朝（MATSUMIYA ASITA）
愛知県立大学・教育福祉学部・准教授
研究者番号：10322778